

じゃおクラブにおけるオンライン方式の活用

2021年2月19日

業務IT化担当 竹内

新型コロナウイルス感染症によるじゃおクラブの活動への制限は程度の差はあったとしても、年単位で続くと考えられる。よって、その影響を少なくするためのオンライン方式の今後の方向について、以下を提案する。

基本方針

1. コロナ禍のもと、止むを得ず、会議や活動においてオンライン方式を活用する。
2. オンライン方式の導入にあたっては、本部で一様な結論を出すのではなく、地域ごとに、地域が、地域に合う形で活用する。理由はオンライン方式については様々な点で地域差が大きいからである。
3. オンライン方式の導入を希望する地域じゃおは、必要に応じて勉強会や接続テストを実施する。本部とすでに導入した地域じゃおは、求めがあれば技術支援を提供する。技術支援には勉強会や接続テストの支援のほか、使用説明書の提供などが含まれる。
4. コロナ禍収束後は、基本的に可能なものから元通りの活動に戻すが、事務的な会議など、移動時間の節約などのメリットが得られるものはオンライン方式を活用する場合もある。

コロナ禍におけるオンライン方式の活用の現状

地域	活用する活動	備考
本部	1. 運営委員会 2. HP サークル（会議） 3. じゃおサロン	▶ 運営委員会は費用、移動時間を考慮すると利用のメリットが大きい。 ▶ HP サークルは会議への利用を続ける方向。地域を超えての移動時間短縮のメリットが大きい。 ▶ じゃおサロンでのオンライン方式利用はコロナ禍での開催に効果があった。参加者が増えることも実証されている。今後の利用はじゃおサロン検討グループの結論による。
湘南	HP 担当・広報担当の打ち合わせ	▶ 打ち合わせで活用する方向。移動時間短縮のメリットが大きい。
県央	予定なし	
ベイサイド	予定なし	
多摩・田園	1. 定例会 2. グラファーズ 3. おしゃべりの会 4. まちカフェ！	▶ コロナ下において会議で活用。 ▶ グラファーズとおしゃべりの会は活動での活用例 ▶ オンライン開催となった「まちカフェ！」へは今後の参加を検討する方向。

オンライン方式導入にあたっての留意事項

オンライン方式の導入に際しては、パソコンやスマホを持たない会員に配慮した進め方が必要であり、以下の点で、パソコンやスマホを持たない会員に、可能な限り事前に了解を得ておくようにする。

1. コロナ禍において、止む無くオンライン方式を導入すること。
2. 重要事項は、じゃおニュースの配布と同様に書面にて情報を届けること。
3. 重要な決議事項は、書面での投票を保障すること。
4. 決議結果は、書面あるいはその他の方法で報告すること。

検討事項（コロナ禍におけるオンライン方式の積極的利用と社会的意義）

コロナ禍が長期化し、自宅に閉じこもりがちになる会員が増えていると思われる。このような会員に対し、オンライン方式であっても互いに交流できる機会を提供することは、高齢者が主体であるじゃおクラブにおいて、会としての目的を達成し、会員の孤立や孤独を防ぐ社会的な意義があると考えられる。地域が、オンライン方式の導入を検討する際には、このような点を検討したほうが良いと思われる。